

人生 仕事

女優
浅利香津代さん(72)

▶▶ 6完

談

かたる

古里への思い再燃 表現人生歩み続ける

「秋田おぼこ」を全国に知らしめた。才能と情熱にあふれたその生きざまを全部秋田弁、スタッフも全員秋田出身者で固めて演じました。

舞台は秋田県内や東京で250回以上におよび、数カ所の演劇鑑賞団体から主演女優賞をいただきました。これを機に私の中の秋田への郷愁が再燃しました。

とがあると思えました。清香会の定期公演では、東海林太郎や菅江真澄、秋田初の女性代議士和崎ハルらを演じ、朗読もしています。人のために命を削った秋田の先人の偉業を顕彰し、後世に伝えていきたいという願いなのです。

でも、秋田に帰るたびに「古里は変わってしまったな」と感じます。秋田弁は子どもも若い人もほとんど

「平和の朗読会」で戦争の恐ろしさや命の尊さを語り伝える浅利さん。2015年7月、秋田市内の小学校



△浅利さんは50代になって舞台「民謡・秋田おぼこ物語―貞子」に出演。民謡歌手佐藤貞子の一生を演じた。

秋田弁で舞台熱演

貞子の舞台に取り組んだのは、秋田でお世話になっている研究者に勧められたのがきっかけです。秋田県神代村(現仙北市)出身の貞子は歌と踊りに命を燃や

△63歳からは日本舞踊の名取・師範の資格を生かして日本舞踊教室「清香会」を秋田市に開設。東京と往復して月4回教えている。

古里への思いが強まっていた時、友人が「秋田に稽古場を開いたらどう？」と背中を押してくれたんです。芝居で思いを表現するだけでなく、踊りの稽古を通して伝えられるものがある。私にも秋田でできるこ

使わなくなりました。こんな小さな島国の中で標準語が広がり、地域性が壊れてしまった。私も昔は秋田なまりがコンプレックスでしたが、今はその良さがしみじみ分かる。失われていくのは本当に残念です。

△秋田市の依頼を受け、2010年からは市内の小中学生を対象とする「平和の朗読会」も開催。土崎空襲が題材の絵本「はまなすは

います。「命って時間よ」「一人一人が両親から命のバトンをもらったよ」「心と体を鍛え、平和を築ける人間の力、命の力を持つとね」と優しい言葉で語り掛けます。開始当初は1年で3校だった朗読会も、今年

秋田から右も左も分らない東京に出て、芝居一筋ですと走り続けてきました。何もかも一生懸命で、敵も多かったと思うけれど、誰が敵かさえも分からなかった。育ててくれた師匠、陰ながら支えてくれた皆さ

10月には秋田市で清香会定期公演とリサイタル公演があります。感謝の思いを伝えるためにも、体力が続く限り「表現人生」を歩んでいくつもりです。(聞き手は生活文化部・成田浩二)